

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年11月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0171400146		
法人名	社会福祉法人 敬聖会		
事業所名	グループホーム ききょう		
所在地	〒041-0801 函館市桔梗町5 5 7番地 (電 話) 0138-47-8033		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年9月11日	評価確定日	平成21年11月4日

【情報提供票より】(平成 21 年 8 月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13 年	5 月	1 日
ユニット数	4 ユニット	利用定員数計	36	人
職員数	31 人	常勤	30人,	非常勤 1人, 常勤換算 30人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2 階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	10,760~19,760 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,290 円		

(4) 利用者の概要 (8 月 1日)

利用者人数	36 名	男性	3 名	女性	33 名
要介護1	12 名	要介護2	6 名		
要介護3	11 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森病院、函館協会病院歯科、吉田眼科、やなせ皮膚科、大村整形外科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、函館市の北東部に位置し、母体医療法人が経営する医療機関、ケアハウス、老健施設などの併設施設が隣接している。事業所周辺は、自然豊かで、眺望に優れている。各ユニットは独立しているが、全職員が、利用者全員を支援することを基本としている。職員の異動が2年に1度あるが、法人全体として職員の定着が図られているため法人内のどの事業所を利用者が自由に入出入りしても、なじみみの職員が必ず居るため安心できる。運営者は、職員の育成に理解があり、資格取得者が多い。職員は、利用者の尊厳を守りながら、家庭的雰囲気の中で、明るく生活できるように努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である地域密着型サービスの理念については、いまだつくりあげるまでには至っていない。地域との交流についても、立地の困難さもあり、課題として改善はされていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、各ユニットごとに職員が記入し、日ごろのケアの反省点を見出し、ミーティングの時に話し合い、改善に結びつくよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごとに、運営推進会議を開催している。評価結果の公表、事業所の活動や利用者の日常の生活の様子を報告し、参加メンバーから出された意見やアイデアは、運営に反映させている。
重点項目④	各ユニットの玄関フロアに意見箱と記入用紙を設置している。また、第三者評価委員を定めたり、面会時に家族に声がけするなど、意見や苦情が言いやすいように配慮しており、出された意見や苦情は、申し送りの時に話し合い、運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内の神社のお祭りやフラダンスショーに出かけたり、農家の方が野菜を届けてくれることもあるが、事業所と地域の方々とが、支えあうような関係には至っていない。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、事業所の運営方針を理念として活用しているが、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくりあげるまでには至っていない。	○	地域密着型サービスの意義を理解し、事業所独自の理念をつくりあげることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、申し送り時や月1回のミーティングの時に、運営方針に沿った支援を行うことを職員全員で話し合い、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町内会に加入している。利用者は、神社の夏祭りやフラダンスショーを観に出かけたりしているが、立地的に困難な面があり、事業所と地域の人々が支え合うような関係には至っていない。	○	立地的に困難な面があり地域住民との交流に苦慮しているが、社会福祉協議会のボランティアセンターとの連携や町内会活動への積極的な参加など、地域と利用者が接点を持つことに、努力することを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は、自己評価、外部評価の意義を理解している。自己評価は各ユニットごとに職員が記入し、ミーティングの中で日ごろのケアについての反省点を見出し、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。外部評価結果の公表や、事業所が現在取組んでいる内容についての報告し、出された意見やアイデアを、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3ヶ月ごとに地域包括支援センターと、情報を交換している。また地区民生委員の訪問などがある。市の担当者をはじめ関係機関などと連携を密にして、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを3ヶ月ごとに発行し、写真を掲載して生活の様子を伝えたり、心身の状況に変化がある時は、すぐに家族に報告している。年に1度、職員に関する便りを発行し、職員の異動を知らせしている。2ヶ月に1度は、金銭出納張のコピーと領収書を添えて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関フロアーに記入用紙と意見箱を置いたり、第三者評価委員を定めるなど、意見や苦情の聴取に努めている。出された意見、苦情は、申し送りの時に改善に向けて話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所は福利厚生を充実させるなど、職員の離職を最小限に抑える努力をしている。全職員で利用者全員を支援することを基本とし、2年に1度、ユニット間で職員の異動があるが、法人の事業所全体でなじみの関係での支援を利用者が受けられるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、外部研修を出張扱いとし、職員が段階的に受講できるよう計画しているため、有資格者が多い。年2回の内部研修では、外部研修受講者が講師となり職員全員に報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会に所属し、同業者との交流はある。近くの同業施設を相互訪問して、事例体験や情報交換などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と面会し、家族から情報を得ている。その上で職員は、その場の雰囲気になじめるように柔軟な支援を行い、生活が安定するのを見極めてからサービスの利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「1日1度は利用者と一緒に笑うこと」を目標にし、利用者の笑顔に癒されている。家庭菜園や家事などで学ぶこともあり、和やかな生活ができるように支え合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と職員の会話や利用者の表情、行動、声などを「声ノート」に記録し、本人の意向や思いを大切に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや希望を記録した「声ノート」の内容を家族と相談した上で意見を聞き、チームでカンファレンスをし、センター方式で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画を見直しており、状況に変化がある時は家族と相談し、随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望により、受診・通院、理・美容院の送迎、自宅訪問など臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は、本人と家族の希望に応じて対応している。また、隣接の母体医療法人の看護師の訪問や夜間受診療ができるなど、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と本人の希望で、事業所として看取りの経験がある。症状が重度化した時には再度、家族の意向を聴いて対応をしている。終末期に向けて、母体法人の医師が講師となり勉強会を重ねており、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録は、事務室に保管している。職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所として基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの気持ちを大切にして、買い物、散歩、カラオケなど柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接した併設事業所で調理した食事が届く。事業所では、一人ひとりに合わせ、きざみ食にしたり、汁物を調理したりして、食事を提供している。また、利用者は能力に応じて、盛り付け、食器洗い、後片付けなどを職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めるのではなく、利用者の希望で自由に入浴ができる。入浴を拒否する利用者は、タイミングを見計らい、入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとり一人の生活歴を把握して、家事仕事、家庭菜園の世話など、それぞれの状態に応じて力が発揮できるように支援している。カラオケの好きな方は、他のユニットと合流して楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、事業所の周辺の散歩や買い物など、戸外に出る支援をしている。また、年2回遠出のドライブを行い、毎月1度は大型スーパーや、弁当持参のピクニックなどに行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関を施錠していないが、夜間は防犯のため鍵をしている。本人の希望で居室に鍵をかけている利用者には、職員が3時間ごとに巡回して安全を確認している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、併設の事業所と合同で、夜間を想定した火災訓練をしている。2階には、消防署と直結の火災報知機を整備しており、隣接施設と連携を常に取り合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人事業所の管理栄養士による献立、栄養のバランス、カロリーを計算した食事を提供している。水分は、1日1500mlを目安に摂取して記録をとっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの共用空間は、広くて明るく、清潔感があり、不快な音や光がないように配慮している。居間には畳4畳程の小上がりがあり、壁には季節感のある装飾が飾られ、混乱防止のために、トイレや居室の入り口の廊下を色分けするなどの工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、トイレと洗面台、押入れを完備しており、利用者は自宅から持参した、家具や日用品、写真などを飾り、居心地良く過ごせるように工夫をしている。		

※  は、重点項目。